

資料1-4 令和3年度第1回堺市歴史的風致維持向上協議会等の意見要旨と対応一覧表

分類	委員名	委員意見	計画案における対応
計画の目的・骨子等	増田小浦	1期計画の最終評価で得られた成果と残された課題の確認作業をした上で、2期計画の目的や目標を定めるべき。	◎序章「計画策定の背景及び目的」で1期計画の成果と課題をふまえて記載しました。
	増田島田	ハードとしての整備の進捗具合、それが地域の活動にどう影響したか、市民の意識がどう転換したかを計画の評価軸の設定としてはどうか。それらを整理することで、2期への課題整理となるのではないか。1期計画で整備したものを2期計画でどう活用するかの点検が必要ではないか	◎序章および第3章「課題と方針」で第1期計画の成果をふまえて記載しました。
	宗田	歴史的風致維持向上計画を策定することを通じて、堺の隠れた豊かさを発掘できるのではないか。	◎序章「計画策定の背景及び目的」で本市の歴史文化資源に触れ、体感することで新たな歴史への興味を得られる取組が必要であることを記載しました。
	小浦	歴まちは3省共管事業であり、ただ単に、文化財としての歴史資源を保存し活用することを考えるのではなく、それを核とした市街地環境、まちづくりや地域づくりとつないでいくことが大事な論点である。	◎第3章で歴史的なまちなみの魅力向上、伝統の継承や振興、都市魅力の向上などを方針に記載しました。
	橋爪	1期計画と2期計画との違いをメリハリをつけるべき。2期計画ではどのように変えていくのか、継続していくのかを明記してはどうか。	◎資料1-3で継続事業と新規事業がわかるよう、表にまとめました。
	中野	ハード整備ではなく、市民が誇りに思い、外から来た人に自慢できるようなところを追求しないとイケない。	◎歴まち計画の序章、第4章第1期計画の成果において市民意識調査結果について記載しました。 また、第3章「方針」で本市の歴史・文化への関心が高まり、来訪者が増えることでシビックプライドの向上につながることを記載しました。
	宗田	1期計画では、世界遺産に登録され、古墳のある街に暮らすことが見えてきた。2期計画では、さらに周辺住民の暮らしと活動を整えるような書き込みへの議論が必要。	◎令和3年度の市民意識調査結果を踏まえて計画に追記しました。 また、市民と協働した百舌鳥古墳群の保存管理に向けた取組について引き続き事業に記載しました。
	橋爪	堺は、歴史が重層化しているまちが最大の魅力。歴史を感じれることを付与していくことが大切。	◎本市の歴史的風致の特徴は、各時代で形成された歴史・文化の重層的な発展と共に育まれた良好な市街地で、伝統的な活動が継承されてきたことにあると記載しました。
序章	増田	序章の1期計画の成果の中で世界遺産登録の成果についても記載するべき。	◎序章「計画策定の背景及び目的」で1期計画の成果で世界遺産登録が追い風になったことを記載しました。
	宗田	序章に記載した市民意識調査について、「堺市は魅力や愛着を感じるまちだと思うか」という設問だけでなく、「歴史的都市の認識が高まってきた」という書き方ができないか。	◎序章「計画策定の背景及び目的」で、令和3年度の市民意識調査の質問に、「歴史資源や文化資源を身近に感じることができるか」という設問の結果を追加しました。
	宗田	堺は京都より古く、日本の歴史が考古を含めて残っている。街なみだけでなく、もっと深いところで市民は重層性のある歴史を意識していると書いてほしい。	◎序章の冒頭で、歴史文化を支えてきた地域の人々の活動が重層的な歴史・文化の発展を背景に、良好な市街地環境を育んだことについて記載しました。
	小浦	計画の目的では、継続する内容をもう少し書いた方がよい。市として継続する内容であっても、第2期計画として新規に記載する取り組みがあれば、「継続」に加えて、何か展開できる言葉を入れることで、計画として積極的な書き方となるのでは。	◎序章「計画策定の背景及び目的」で、市民意識の向上の継続を求めるだけでなく、実際に歴史・文化資源を訪れるよう誘導し、知り、体感するたびに新たな歴史への興味を得られる取り組みの必要性を記載しました。
第1章	橋爪	浜寺や大浜は、海濱行楽だけではなく、郊外住宅地としても重要。堺の街がどう変わったのか、都市開発、高級住宅地としての変遷を意識して追記してみてはどうだろうか。	◎第1章「歴史的環境」で、近代に戦前の住宅地開発を、戦後に泉北ニュータウン開発について記載しました。
	増田	土木学会の土木遺産や近代化遺産についても市内にないか確認の上、記載するべき。	◎第1章「歴史的環境」で阪堺電気軌道と関連施設群が土木遺産に選出されたことについて記載しました。
	橋爪	第1章の歴史的環境で、戦中や戦後復興期(占領下)についても、適宜記述すべき。現代に、昭和30年のフェニックス植樹について記述があるが、それは復興した象徴であって、復興事業で何がなされたのかも記載すべき。	◎第1章「歴史的個性」で、戦前の工業化と昭和初期の不況、空襲後の復興と昭和30年代の海岸部の工業地化について記載しました。
	宗田	堺には老舗が多く、商工業の世界で活躍した人物がいるはず。計画に記載することで技術革新があったことが市民に理解されるとよい。	◎第1章「歴史的環境」の「堺の手織緞通」や、第2章「環濠都市の伝統産業にみる歴史的風致」において緞通、刃物、線香など堺の産業にかかわる人物を記載しました。

第2章 歴史的風致	小浦	2期計画の策定では、重点区域以外の歴史的風致についても考え方の整理を行うこと。歴史的風致のエリアについては、ラインを引く前に歴史的風致をどう理解するのかを大事にするべき。	◎8つの歴史的風致の記述において、建造物や活動の記載をもとに範囲を図示し、記載しました。
	増田 小浦	祭礼に関連する歴史的風致の範囲は、市街地環境に注意のうえ、関連するエリアが抜けないように注意すること。	◎歴史的風致の範囲は、市街地環境をもとに設定し、神社等に確認したうえで記載します。
	増田	百舌鳥古墳群の周遊について、宮内庁による祭礼が現在でも続いているという、陵墓としての評価にも触れるべき。	◎第2章「百舌鳥古墳群の概要」で一部の古墳が陵墓として宮内庁により管理され、祭祀が行われていることを記載しました。
	橋爪	百舌鳥古墳群の周遊について、古墳についても高度成長期に周辺部の市街化が進む中で、古墳を守る人たちなどについて記述すべき。	◎第2章の「百舌鳥古墳群の周遊」の記述順序を変更し、戦前から高度成長期までの記載を時系列のとおり整理しました。また、戦後のいたすけ古墳の保存運動、中学校郷土部が実施した古墳の現状調査について記載しました。
	増田	海浜部の行楽にみる歴史的風致は、浜寺公園や周辺市街地の松の継承に取り組む団体や、諏訪の森駅舎や周辺住宅地について活動する団体などがあるので、関連する団体は記載すること。	◎第2章「海浜の行楽にみる歴史的風致」の建造物や活動の項目で記載しました。さらに、第5章の文化財の保存または活用に関する事項にも地域団体について記載しました。
	増田	海浜行楽の歴史的風致の中で、浜寺公園や大浜公園の開設経過について、市街地環境を含め触れること。	◎第2章「海浜部の行楽にみる歴史的風致」で戦前の住宅開発にかかる内容を記載しました。
	橋爪	浜寺公園については、終戦後、占領下に公園が接収されて、アメリカの住宅街となったことを記載するべき。	◎第2章「浜寺公園の行楽」で記載しました。
第3章 課題と方針	宗田 橋爪	祭礼など、民俗に関わる部分はコロナで大きく変化しました。変化があればしっかりと考えていくべき。全般に新型コロナで厳しい状況にあるが頑張るというような記述が必要ではないか。	◎第3章「伝統を反映した人々の活動に関する課題」で新型コロナの影響はあったが、途切れることなく活動が継承されたことを記載しました。
	増田	意識を高めるだけでなく、次は行動へどうつなげるかを記載してほしい。	◎第3章「歴史。文化に対する市民意識への課題」で、本市の歴史について関心を高めるだけでなく、本市の歴史を見て触れるための行動誘導への取組が求められることを記載しました。
	増田	堺の小中学校での古墳の取り組みをどのように行っているのか。	◎第3章「歴史。文化に対する市民意識への課題」に学校教育の中で本市の歴史・文化資源を訪れ、学ぶ機会の必要について記載しました。さらに、第6章の事業に堺市博物館での校外学習受け入れ事業を記載しました。
	宗田	史跡の古墳における整備に対して、「一体的な整備や修景」とあるが、どういったものか。また、どのようなかたちに整備するのがよいのか	◎第3章の関連計画において、百舌鳥古墳群の整備基本計画を記載します。百舌鳥古墳群の整備は、現在改定中の保存活用計画と同計画に基づき実施します。
	小浦	来訪者が来る、良いと言ってもらえることが、市民の意識のモチベーションとなる。そのようなモチベーションを活かして、保存活用に市民が関わっていく取組があるはず。	◎第3章「歴史。文化に対する市民意識への方針」に本市の歴史文化に対して関心が高まり来訪者数が増加することが、シビックプライドの向上につながることを記載しました。
	小浦	環濠都市北部を訪れたが、町家がずいぶん減っていた。このことを課題に入れて、2期計画でも取組を進めてほしい。	◎第3章「歴史上価値の高い建造物等の保存・活用に関する課題」で、記載しました。
第4章 重点区域	増田	世界遺産登録にともない、古墳を分断する建物の高さ規制などを行っている。世界遺産評価の視点をふまえて、景観規制などの記述を行うこと。	◎第4章「重点区域における良好な景観の形成に関する施策との連携」において記載しました。
	増田 橋爪	市内観光を誘発するためのマイクロツーリズムなどの“行動誘発”についてもっと考えるべき。例えばスマートシティの取組みの中で、新たな移動手段が提案されるとよい。	◎歴史的資源をめぐる回遊性の向上については、第3章「課題と方針」に記載しました。計画認定後、新たに交通手段や歴史的資源をつなぐルートの整備など、歴史的風致の向上に資する事業を実施する場合は、計画変更などを検討します。

第5章 事業	増田 橋爪	刃物について、匠の伝承のようなことはやっているのか。 刃物など伝統産業をどう海外にアピールしていくか、何か展開できることが見えているとよい	◎第6章の伝統産業に関する事業で、後継者育成や販路拡大などに関する取り組みを記載します。また、海外へ伝統産業のPRの取り組みを行う際には、計画変更などにより記載を検討します。
	橋爪	節目となるような事業の検討が必要。世界遺産となつて5年、10年などが含まれる。事業を実施することで、市民が誇るようなきっかけとすべきである。	◎世界遺産課で開催している古墳サミットなどの取り組みを、第6章の事業に記載しました。
	増田	歴史の町なので、歴史文化を活用しながら、自転車の走行環境の改善も必要なのではないか。	◎第6章の事業で自転車を利用した周遊の取り組みについて記載しました。